

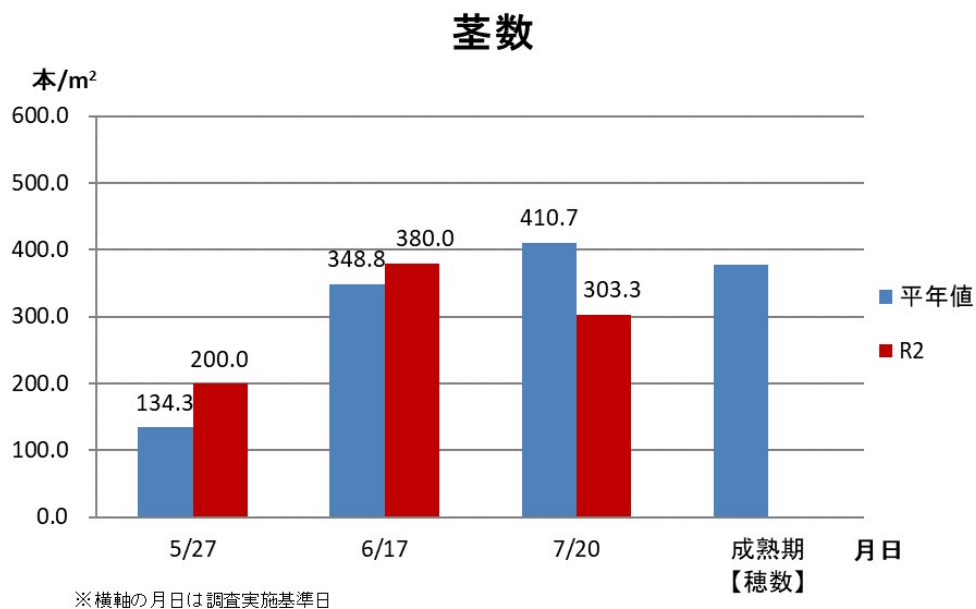
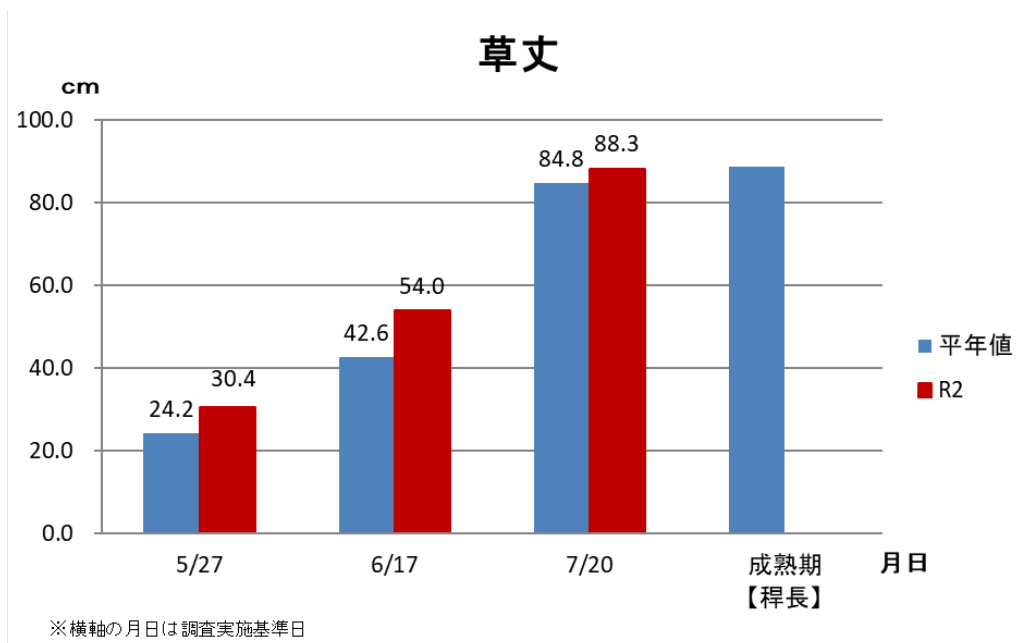
令和2年度 農作物（水稻）モニター事業調査結果

本県NOSA Iでは、水稻の生育状況を調査し、気象・病虫害発生状況などの基礎情報を継続的に観測して、県内水稻の作柄や被害発生状況の把握に務めています。

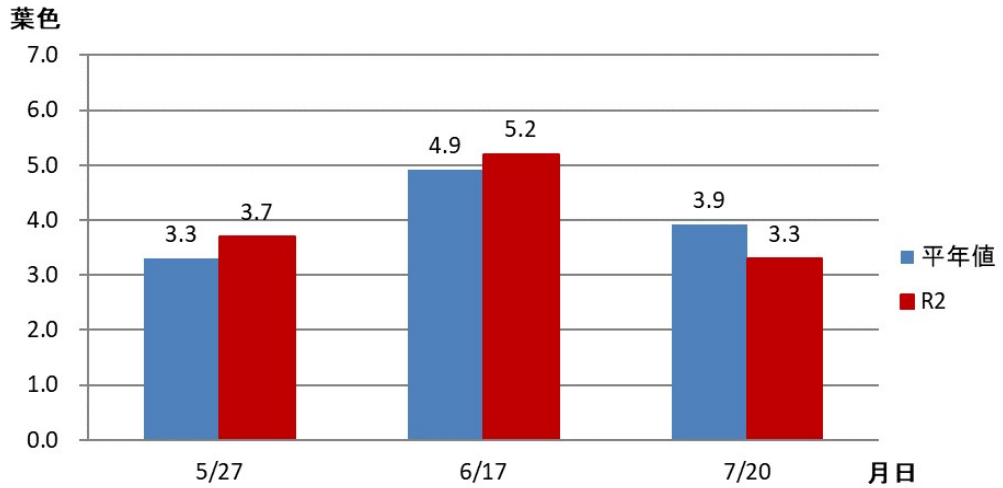
1. 水稻の生育および病虫害発生調査結果（第3回）

1) 水戸市の調査結果

調査場所	品種	移植日	調査日
水戸市	コシヒカリ	5月24日	7月30日

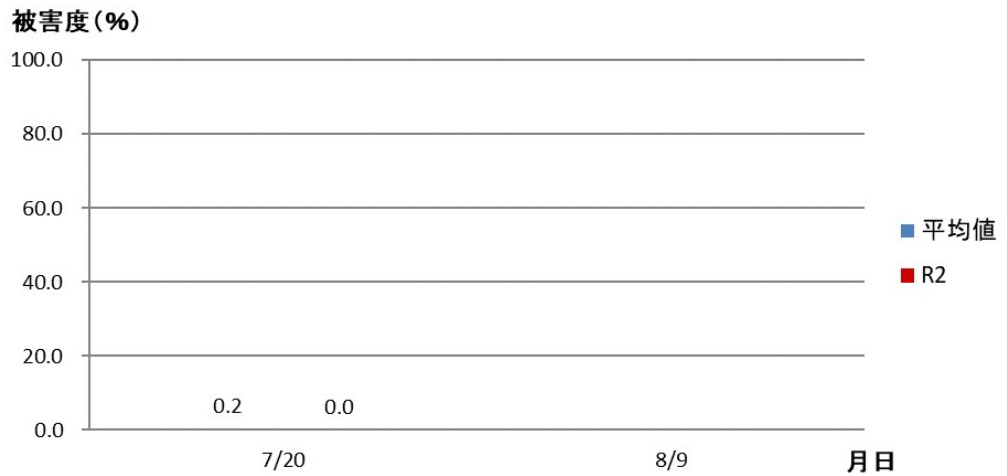


葉色(カラースケール)



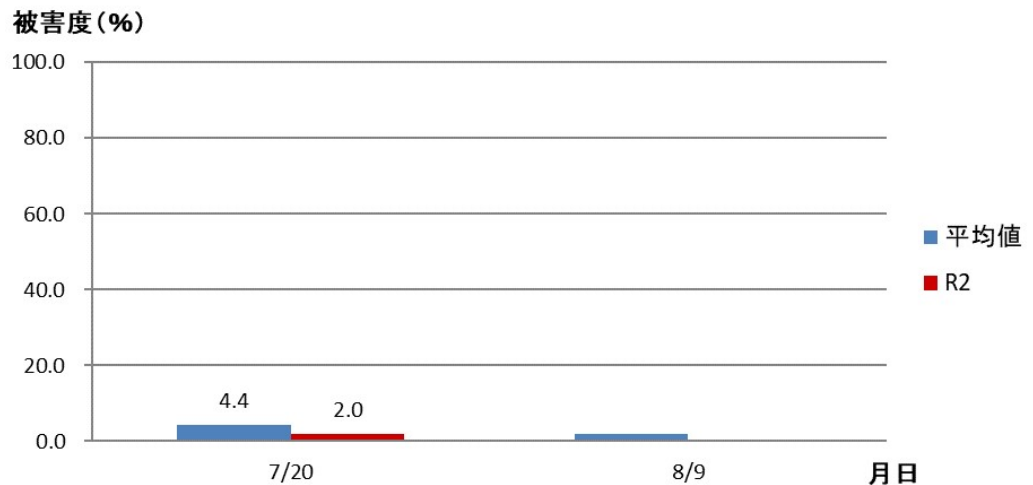
※横軸の月日は調査実施基準日

カメムシ類



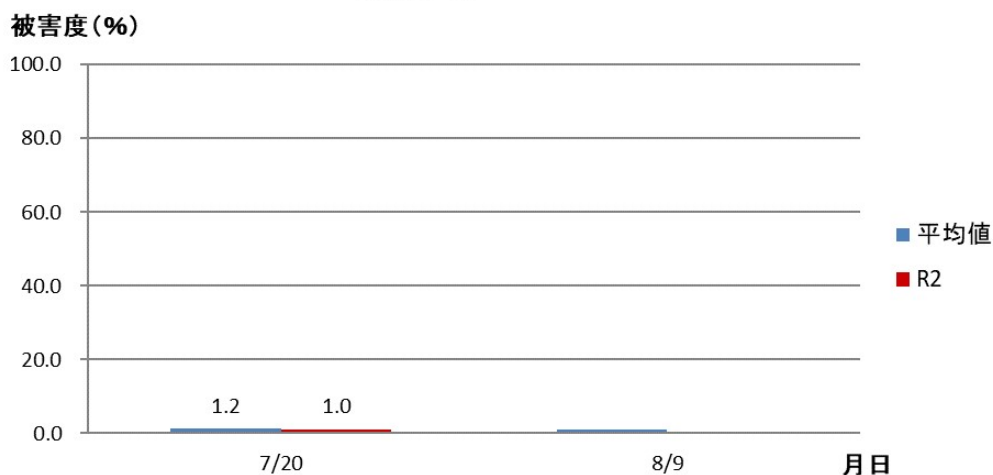
※横軸の月日は調査実施基準日

葉いもち



※横軸の月日は調査実施基準日

紋枯病



※横軸の月日は調査実施基準日

- 被害度は該当虫による葉の食害の度合い
- 平年値は平成 27～令和元年の 5 年間の平均値

○生育調査結果について

【生育状況：過去 5 カ年の平均値との比較】

草丈は平年並み、茎数は平年より少なく、葉色は平年より淡くなっています。

7 月 20 日現在の県内「コシヒカリ」の傾向は、草丈はやや長い～平年並、茎数は平年並～やや少ない、葉色はやや濃い～平年並となっています。また、出穂については、過去 5 カ年の平均よりも 3 日遅い予測となっています。

【今後の管理上の注意点】

出穂後は、間断かんがいをを行い、根の活力維持に努めてください。特に出穂後は田面が乾く前に入水する間断かんがいを繰り返し、稲に水分ストレスがかからないように注意しましょう。

○病害虫発生調査結果について

葉いもち病、紋枯れ病とも平年より少ない発生となっており、カメムシ類の発生は見られませんでした。

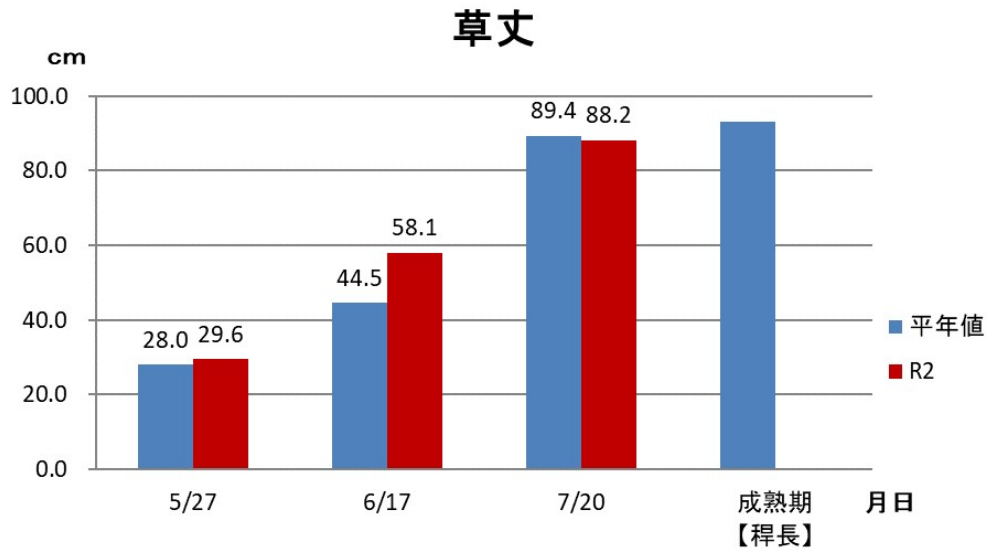
葉いもちの発生は少ですが、今後、上位葉への進展がみられなければ問題ないと思われます。上位葉への進展が見られる場合は直ちに防除を行ってください。

カメムシ類の発生は見られませんが、穂揃期に成虫を確認した場合や出穂後 10～15 日頃に幼虫を確認した場合には防除を行ってください。

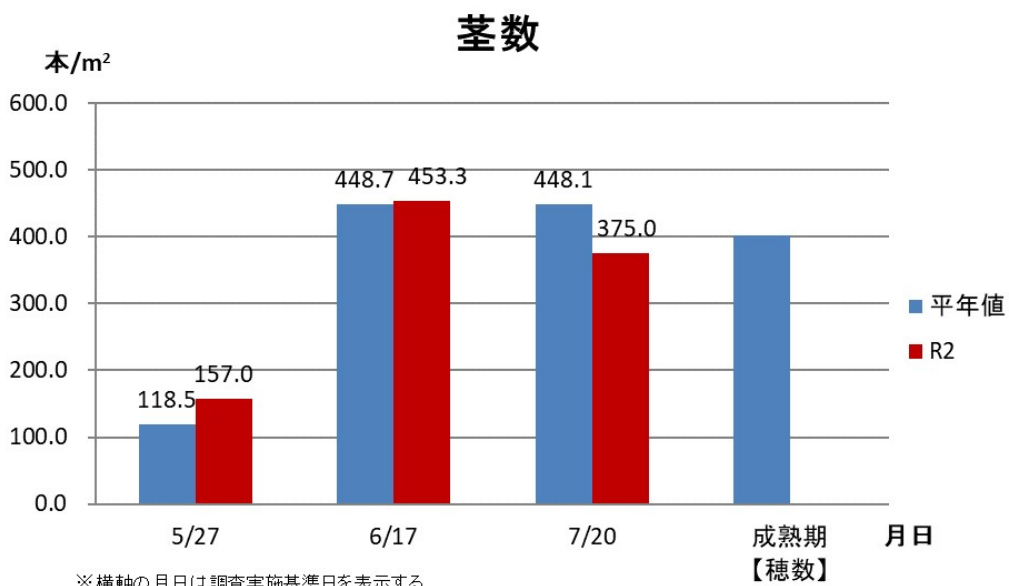
近年、紋枯れ病の県内における発生及び発病度が増加・重症化の傾向にありますので注意してください。対策としては、株元（水際部）で初期発生が見られたら、幼穂形成期から乳熟期にかけて薬剤防除を行います。

2) 茨城町の調査結果

調査場所	品種	移植日	調査日
茨城町	コシヒカリ	5月9日	7月17日

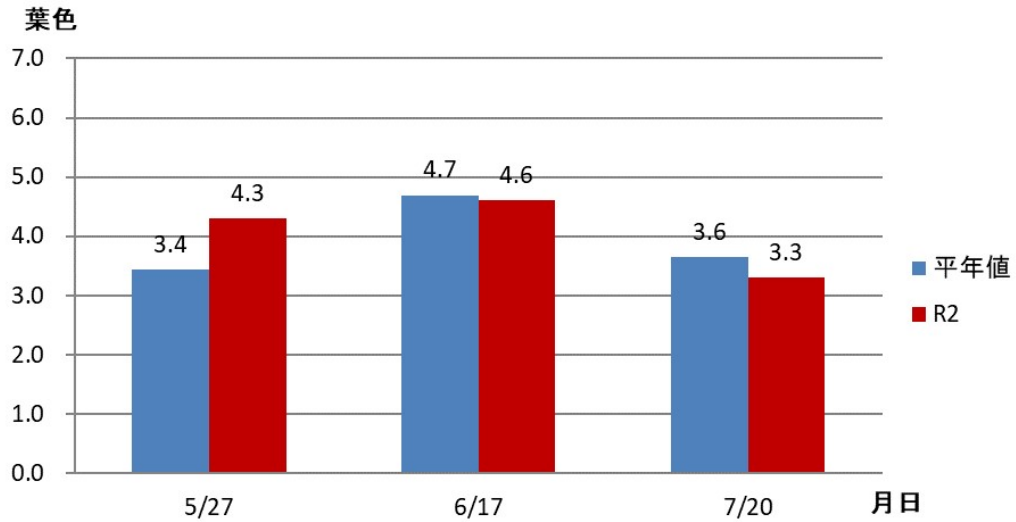


※横軸の月日は調査実施基準日を表示する。



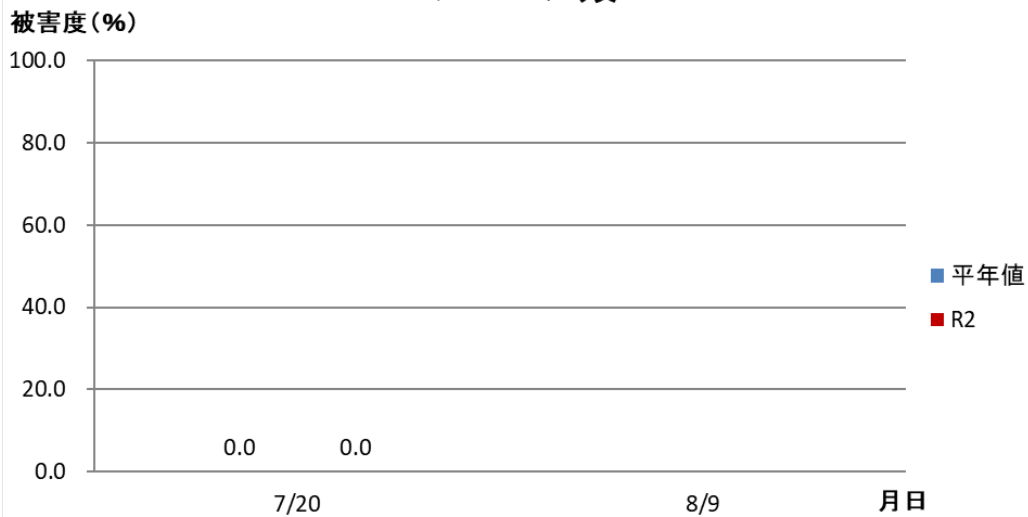
※横軸の月日は調査実施基準日を表示する。

葉色(カラスケール)



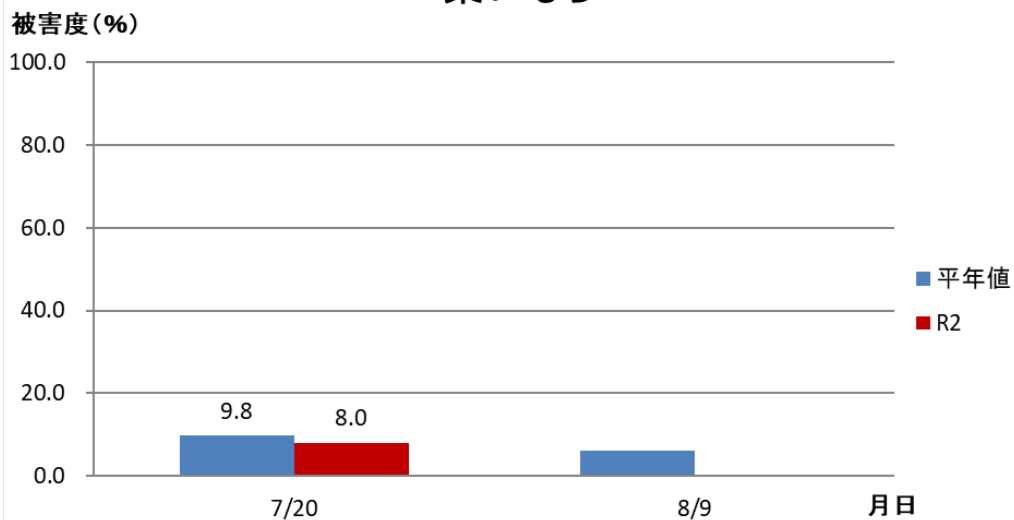
※横軸の月日は調査実施基準日を表示する。

カメムシ類



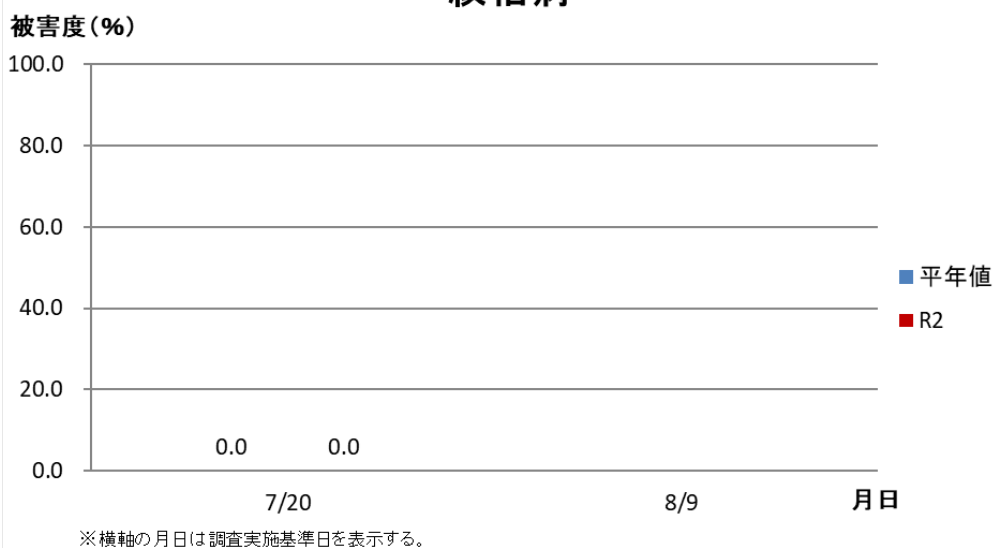
※横軸の月日は調査実施基準日を表示する。

葉いもち



※横軸の月日は調査実施基準日を表示する。

紋枯病



- 被害度は該当虫による葉の食害の度合い
- 平年値は平成 27～令和元年の 5 年間の平均値

○生育調査結果について

【生育状況：過去 5 年の平均値との比較】

草丈は平年並み、茎数は平年よりやや少なく、葉色は平年よりやや淡いとなっています。

7 月 20 日現在の県内「コシヒカリ」の傾向は、草丈はやや長い～平年並、茎数は平年並～やや少ない、葉色はやや濃い～平年並となっています。また、出穂については、過去 5 年の平均よりも 3 日遅い予測となっています。

【今後の管理上の注意点】

出穂後は、間断かんがいをを行い、根の活力維持に努めてください。特に出穂後は田面が乾く前に入水する間断かんがいを繰り返し、稲に水分ストレスがかからないように注意しましょう。"

○病害虫発生調査結果について

葉いもち病は平年より少なく、紋枯病、カメムシ類の発生は見られませんでした。

葉いもちの発生は少ですが、今後、上位葉への進展がみられなければ問題ないと思われます。上位葉への進展が見られる場合は直ちに防除を行ってください。

カメムシ類の発生は見られませんが、穂揃期に成虫を確認した場合や出穂後 10～15 日頃に幼虫を確認した場合には防除を行ってください。

紋枯病の発生は見られませんが、近年、県内における本病の発生及び発病度が増加・重症化の傾向にありますので注意してください。対策としては、株元（水際部）で初期発生が見られたら、幼穂形成期から乳熟期にかけて薬剤防除を行います。

2. 次回調査予定日

8 月 9 日

茨城県農業共済組合連合会調べ
協力：茨城県農業総合センター